メーデーと直江津空襲考える集い

今年は戦後八〇年。本来なら地球上のすべての国と地域で戦争が終わり、平和になってもいいのですが、世界各地で戦争が続いています。

今月1日は高田にてメーデー上越集会とデモがあり、参加してきました。実行委員会、参加団体などの挨拶では、戦争、異常な物価高や県議会での原発再稼働の是非を問う県民投票条例案否決に怒りの声が相次ぎました。

5日は直江津の黒井公園において、平和を考える集いが行われました。

ここでは、毎年5月5日に、直江津空襲で亡くなった人たちを偲び、2度と戦争をしない決意を固めるために集いが開かれています。

今年は直江津空襲80年ということでした。地元で毎年参加して大事な役割をしてきた関川幹雄さんが亡くなったことで、どうなるか心配していたのですが、直江津、高田を中心に30人近くが集まり、7人ほどの人たちがそれぞれ平和の思いを語りました。

直江津の田村さんが吉川区片田出身の義母の悲しい戦争体験について語ったのには感動しました。また、同じく直江津の池田さんが、やなせたかし作詞の「アンパンマンのマーチ」「手のひらを太陽に」を出して、平和の尊さを語ってくださったのにも胸が熱くなりました。

下のイラストは、この集いの様子です。

4月上旬に誕生した吉川区のコウノトリのヒナ3羽は順調に育っています。最初の頃、1番目、2番目のヒナに比べて最後に誕生したヒナの遅れが目立ちましたが、いまはほぼ同じ大きさに育ちました。写真はカエルを奪い合うヒナたちの様子です。

大潟で子どもの日コンサート

「愛音の会」主催の「子どもの日お祝いコンサート」が6日、大潟コミプラであり、大勢の人が南米の音楽や尺八による演奏などを楽しみました。

下のイラストは音楽グループ・マリキータによる「花祭り」の演奏風景です。「花祭り」は50年前、私の結婚式の入場時に使った楽しい曲です。

【ヒメウツギ】アジサイ科の落葉低木。漢字で、「姫卯木」または「姫空木」と書きます。先日、大潟区の民家の庭で見つけました。とてもきれいに咲いていました。さすが小山作之助の「卯の花」の街ですね。花期は5月から6月。花は白、やや下向きにたくさんの花を咲かせます。花言葉は、「夏の訪れ」「秘めた恋」。6日、撮影しました。

はしづめ法一の活動レポート

No.2202 2025.5.11

発行・編集 日本共産党上越市議　橋爪のりかず
Tel 025-548-3627
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp
URL https://www.hose1.jp/

ブログ「ホーセの見てある記」は ← こちら

橋爪法一　検索

春よ来い　第八四九回　一本のチューリップ

「しんぶん赤旗」日刊紙の配達の途中でした。吉川区天林寺の入り口付近にある畑のなかの赤いチューリップが気になって、車を止めました。

目的はチューリップの花の撮影です。ここは近くのひろみさんが管理している畑で、毎年、赤やピンク、紫などのチューリップを見事に咲かせている場所です。数年前、朝日を浴びた赤いチューリップがすべて三角形になっていて、その姿が気に入り撮影しました。以来、その時期になると、このチューリップ畑に目を向けるようになりました。もちろん、撮影もします。

私の場合、花の写真を撮る対象はほとんどが野の花です。この時期で言えば、トキワイカリソウ、ニリンソウ、コシノコバイモなどです。園芸種はめったに撮りませんが、チューリップ、タチアオイ、ヒマワリの三つだけは別格で、毎年撮影してきました。そのチューリップの写真を撮る場所と決めているのが、ここだったのです。この日は自分の体で陰をつくらないように気をつけながら、赤いチューリップを三枚ほど撮りました。

チューリップの撮影をしている時に、道をはさんで反対側で苗代作業をしていた淳一さんと目が合い、朝の挨拶を交わしました。撮影が終わってから、淳一さんのところまで行って、そこでコウノトリの様子などを話したのですが、話している途中で、近くにある赤いチューリップが目に入りました。咲いていたのはほんの一本です。何でこんなところにあるのだろうと思っていたら、淳一さんが、「昨年も咲いたんですよ。保育園の時の残りだろうね」と言われました。

考えてみれば、ここは吉川中央保育園があった場所です。わが家の子どもたちもお世話になった保育園で、運動会などの行事で何度も足を運んでいました。ここにはグランドもあり、保育園の入り口付近にチューリップやスイセンなどが植わった場所があったことをおぼろげながら覚えています。その保育園が統合によりなくなってから数年経っています。建物は壊されましたが、敷地は基本的にはそのままです。チューリップが残っていても不思議ではありません。

ひろみさんによると、前は赤だけではなく、ピンクや白なども咲いていたのだそうです。でもチューリップは植え替えしないでそのままにしておくと、周りに球根を増やすものの、自身はだんだん小さくなっていくとのことでした。その結果が今日の〝赤の一本だけ〟になったようです。

赤い一本のチューリップは高さが四〇㌢ほどで花びらの一枚は下に折れ曲がっていました。でも草むらのなかで頑張っている姿はけなげで、魅力的でした。このチューリップも数枚撮影し、旧吉川中央保育園に唯一残ったチューリップとして全世界に発信しました。

この一本のチューリップのおかげで旧保育園があったころの様々な思い出がよみがえりました。一番最初に浮かんだのはまだ幼い次男を預かってもらった当時のことです。たしか一歳になったかどうかという頃だったと思いますが、当時の渡辺園長さんを先頭に園内で最年少の次男をとても温かく育ててくださいました。次に浮かんだのは入園式での出来事です。ある来賓の方が緊張し、入園する児童に向かって「みなさんにおかれましては……」と挨拶されたのです。とてもまじめな方で、私はその一言でその方を好きになりました。

それにしてもこの一本のチューリップ、よく頑張って咲いています。まわりは草だらけですが、球根さえ残ればまだ咲き続けるに違いありません。来年も再来年も咲いてくれますように。

『ランラン凍みわたり』の動画、変更

前号でお知らせしました『ランラン凍みわたり』の動画ですが、一部に暗くなるところがあり、作り直してもらいました。

これまでの動画は削除し、新しいものを発信しました。右のQRコードからは入れます。「YouTube⇒橋爪法一⇒ランラン凍みわたり」と検索して入ることもできます。

ニュースフラッシュ

旭新緑祭、市内外からお客さん

大島区旭地区田麦で４日、恒例の新緑祭が行われ、参加してきました。あいにくの曇り空でしたが、遠くは神奈川県からもお客さんがあり、賑わいました。当初、ブナ林散策コース　だけとのことでしたが、希望者が20人ほどいて山菜採りコースも急遽加わりました。山菜採りの案内人は私が務めました。

午後からは山菜料理や焼肉を囲んでの交流会でした。今回は竹平の共同車庫が会場でした。私は神奈川や十日町市から参加された人達と一緒に美味しい山菜料理などを楽しみました。イラストはその料理を作ってくださった人たちです。

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。１時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は１時間当たり0.016～0.16μSv（マイクロシーベルト）だとのことです。

	4月23日（水）	5月7日（水）
上越消防署	０．０５３	０．０５３
上越南消防署	０．０５０	０．０４０
新井消防署	０．０５０	０．０４０
頸北消防署	０．０５７	０．０５０
頸南消防署	０．０６３	０．０６０
東頸消防署	０．０５７	０．０５３
名立分遣所	０．０５３	０．０５０
高士分遣所	０．０５７	０．０５３

春よ来い　第八四九回　一本のチューリップ

「しんぶん赤旗」日刊紙の配達の途中でした。吉川区天林寺の入り口付近にある畑のなかの赤いチューリップが気になって、車を止めました。

目的はチューリップの花の撮影です。ここは近くのひろみさんが管理している畑で、毎年、赤やピンク、紫などのチューリップを見事に咲かせている場所です。数年前、朝日を浴びた赤いチューリップがすべて三角形になっていて、その姿が気に入り撮影しました。以来、その時期になると、このチューリップ畑に目を向けるようになりました。もちろん、撮影もします。

私の場合、花の写真を撮る対象はほとんどが野の花です。この時期で言えば、トキワイカリソウ、ニリンソウ、コシノコバイモなどです。園芸種はめったに撮りませんが、チューリップ、タチアオイ、ヒマワリの三つだけは別格で、毎年撮影してきました。そのチューリップの写真を撮る場所と決めているのが、ここだったのです。この日は自分の体で陰をつくらないように気をつけながら、赤いチューリップを三枚ほど撮りました。

チューリップの撮影をしている時に、道をはさんで反対側で苗代作業をしていた淳一さんと目が合い、朝の挨拶を交わしました。撮影が終わってから、淳一さんのところまで行って、そこでコウノトリの様子などを話したのですが、話している途中で、近くにある赤いチューリップが目に入りました。咲いていたのはほんの一本です。何でこんなところにあるのだろうと思っていたら、淳一さんが、「昨年も咲いたんですよ。保育園の時の残りだろうね」と言われました。

考えてみれば、ここは吉川中央保育園があった場所です。わが家の子どもたちもお世話になった保育園で、運動会などの行事で何度も足を運んでいました。ここにはグランドもあり、保育園の入り口付近にチューリップやスイセンなどが植わった場所があったことをおぼろげながら覚えています。その保育園が統合によりなくなってから数年経っています。建物は壊されましたが、敷地は基本的にはそのままです。チューリップが残っていても不思議ではありません。

ひろみさんによると、前は赤だけではなく、ピンクや白なども咲いていたのだそうです。でもチューリップは植え替えしないでそのままにしておくと、周りに球根を増やすものの、自身はだんだん小さくなっていくとのことでした。その結果が今日の〝赤の一本だけ〟になったようです。

赤い一本のチューリップは高さが四〇㌢ほどで花びらの一枚は下に折れ曲がっていました。でも草むらのなかで頑張っている姿はけなげで、魅力的でした。このチューリップも数枚撮影し、旧吉川中央保育園に唯一残ったチューリップとして全世界に発信しました。

この一本のチューリップのおかげで旧保育園があったころの様々な思い出がよみがえりました。一番最初に浮かんだのはまだ幼い次男を預かってもらった当時のことです。たしか一歳になったかどうかという頃だったと思いますが、当時の渡辺園長さんを先頭に園内で最年少の次男をとても温かく育ててくださいました。次に浮かんだのは入園式での出来事です。ある来賓の方が緊張し、入園する児童に向かって「みなさんにおかれましては……」と挨拶されたのです。とてもまじめな方で、私はその一言でその方を好きになりました。

それにしてもこの一本のチューリップ、よく頑張って咲いています。まわりは草だらけですが、球根さえ残ればまだ咲き続けるに違いありません。来年も再来年も咲いてくれますように。

『ランラン凍みわたり』の動画、変更

前号でお知らせしました『ランラン凍みわたり』の動画ですが、一部に暗くなるところがあり、作り直してもらいました。

これまでの動画は削除し、新しいものを発信しました。右のＱＲコードからは入れます。「YouTube⇒橋爪法一⇒ランラン凍みわたり」と検索して入ることもできます。

ニュースフラッシュ

三和区でもコウノトリが営巣、抱卵

上越市教育委員会は4月30日、市内三和区にてコウノトリが産卵し、抱卵状態に入っていることを明らかにしました。産卵したペアはメスが2022年5月8日鳥取県八頭町生まれで3歳。個体番号はJ0482です。オスは京都府京丹後市生まれの6歳で、個体番号はJ0239 です。産卵したのは4月25日頃とのことで、今月下旬にはヒナが誕生する見通しです。上越市内でコウノトリが産卵、抱卵したのは吉川区内のペアに続いて２組目です。

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。１時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は１時間当たり0.016～0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのことです。

	4月23日(水)	5月7日(水)
上越消防署	０．０５３	０．０５３
上越南消防署	０．０５０	０．０４０
新井消防署	０．０５０	０．０４０
頸北消防署	０．０５７	０．０５０
頸南消防署	０．０６３	０．０６０
東頸消防署	０．０５７	０．０５３
名立分遣所	０．０５３	０．０５０
高士分遣所	０．０５７	０．０５３